



ふるさと 水戸12月

「あい」のある学校・地域 つながれ水戸っ子



多くのかたに見守られての水戸まつり

こうちょう なかお しいご
校長 中尾 功

11月9日～19日を水戸まつり週間として、学習成果物の展示やみこしの練り歩きを行いました。保護者の皆さまには運動会当日もご覧いただくことができましたので、昨年度よりも多くのかたに子どもたちのメッセージをお伝えできたのではないかと思います。展示期間中には、地域のかたもわざわざお越しいただき感謝の気持ちでいっぱいです。なお、学校運営協議会ふるさとづくり委員会の企画で、現在、学習成果物の一部をサンヒルズ甲西のロビーで展示しておりますので(7日夕方まで)、ぜひご覧ください。



ようい
用意したチラシはなくなりました



11月18日は「みこしの練り歩き」を行いました。感染症対策のため5、6年生のみで実施しましたが、ほかの学年が運動場を囲み、5、6年生の出発を見送りました。PTAの役員皆さまには安全確保のための見守りをしていただき、また、多くの保護者、地域のかたのご声援を受けながらの練り歩きとなり、子どもたちの心に深く刻まれたと思います。

水戸まつりのみこしは、神社のみこしとは違い神様(ご神体)が入っているわけではありません。元をたどれば「神社のみこしをまねて」というスタートだったと思いますが、現在はその意味合いはなく、子どもたちが学校づくりやまちづくりについて考え、願いや決意を表現した「立体ポスター」ともいべきものです。だからこそ、地域に出ていき、地域のかたに見ていただきたいと思い、コロナ禍のなかでも絶やさずに練り歩きを実施してきました。今年はみこしのコンテストを行いませんでしたが、コンテストをした場合にはどうしても見栄えが重視されがちです。みこしに込めた子どもたちの願いや決意が注目されるよう、伝統を大切にしつつも、変えるところは変えていくことが大切だと考えています。

しやだいこうちやう やまなかとしこせんせい ことば
初代校長 山中敏子先生の言葉

- 水戸まつりは学校づくりである
- 水戸まつりはふるさとづくりである
- 水戸まつりは子どもの自主性を伸ばす場である
- 水戸まつりは子どもの創意をこらす場である
- 水戸まつりは子どもが体を動かす場である

みと こめられたねがいはうけついでいきます
水戸まつりに込められた願いは受け継いでいきます



運動場が生まれ変わりました

11月18日に滋賀県建設業協会甲賀支部の皆さまに運動場の整地をしていただきました。例年、PTAの環境整備作業などで運動場の整地をしていただいていたのですが、運動場に傾斜があることなどから十分な効果が上がりません



でしたが、今回の大規模な整地作業で抜本的な改善につながりました。建設業協会のCSR（社会貢献活動）の一環として取り組んでおられる活動で、今年度は水戸小学校がお世話になりました。



ランランタイム

当日は、たくさんの重機が運動場に運び込まれ、50人を超える建設業の皆さまが一斉に作業をしていただきました。子どもたちは見るうちに美しくなっていく運動場に感激するとともに、勢いよく動く重機に興味津々でした。1年生は国語科の「自動車くらべ」の学習の参考にしようと見学させてもらいました。たいへん美しく生まれ変わった運動場を駆け回る子どもたちの姿がまぶしく感じられました。

「人権」ってなんや？

～アミーゴ(人権)週間によせて～ 12/6～12/17

滋賀県人権教育研究大会が11月29日、30日(本校会場)に行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、動画配信という形になりました。動画をご覧になったかたもおられますと思いますが、記念講演の森田ゆりさんは、「人権」について、以下のように語られました。

- 「生きる力」とは、「自分は大切な人だと思えること」。自分を大切だと思えなくなったとき、人は生きる希望を失う。子どもは特にそうだ。「自分は自分のままで十分尊い」と思えるとき、人は困難をも乗り越えて生きていく力を発揮する。その「生きる力」が「人権」だ。
- 「人権」と「権利」は違う。「権利」には「義務」が伴う。義務を伴わない、人が生まれながらにもっているものが「人権」だ。
- 「人権」には3つある。
 - ①「安心」して生きる。
 - ②今の自分のままでかなりいいという「自信」。
 - ③自分で選んで生きていける「自由」。

「生きる力」についての言葉は、湖南市教育方針で掲げている「生きる力の根っこ＝自尊心」とつながる考え方です。本校が今年度重点課題として「自尊心・自己肯定感を高める」ことは、人権を大切にすることであり、生きる力を高めることなのだと思われ改めて感じました。

「自分が大好き」「なかが大好き」「学校が大好き」「ふるさとが大好き」へのトライを続けていきます。

これには、ノーサイドはありません。

話し合い活動の充実を学ぶ力向上につなげたい

本校は話し合い活動の一つの窓口として「学ぶ力向上」に取り組んでいます。どのクラスでもいわゆる学級会を継続的に実施しており、活発な話し合いができるようになってきました。活発な話し合いのためには、互いの意見を尊重しあう学級の雰囲気が必要ですから、学級の成熟とともに話し合いも充実したものになります。子どもたちが自分たちの願いの実現のために意見をだし、高め合う姿がたくさん見られるようになってきています。

このような取組の積み上げは、委員会活動や代表委員会などの学級の枠を越えた活動の中でも生かされており、代表委員会で生き生きと発言する子どもの姿は本校の自慢でもあります。だからこそ、子どもの思いや願いを生かした学校づくりをしていきたいと考えています。



4年生の話し合い活動